



但馬水産技術センターだより



海況情報 (K2112号)

令和3年7月15日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. 日本海海況予報 (2021年7月中旬～9月)

日本海における海況の予報をお知らせします。

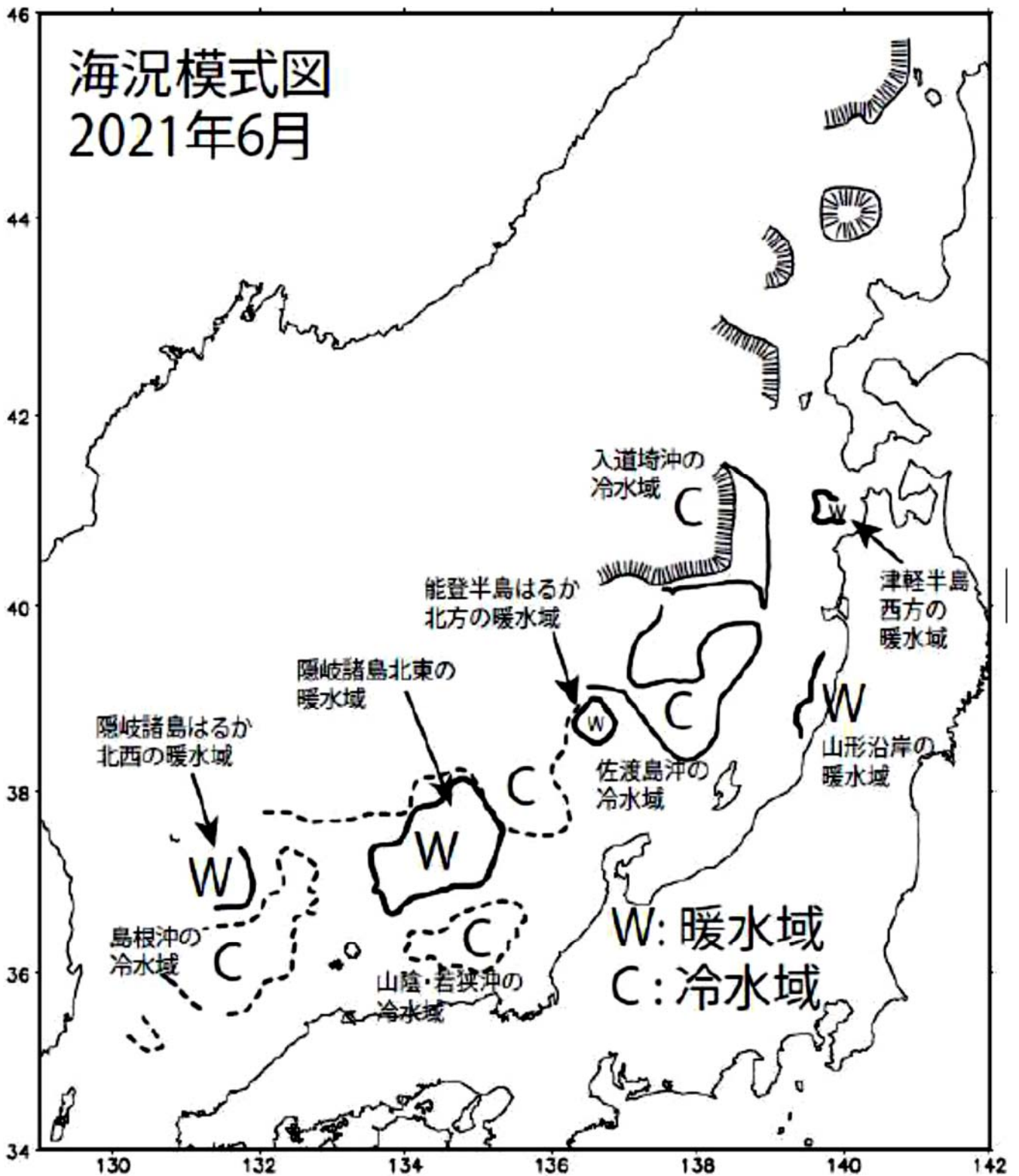
資料1

- ・2021年度第2回日本海海況予報 (国立研究開発法人水産研究・開発機構 水産資源研究所) *観測データの出所は但馬水産技術センターほか各道府県等。

(コメント:7月中旬～9月の見通し一部抜粋、別紙の「2021年6月の海況模式図」参照)

- ・島根諸島はるか北西の暖水域は東進し隠岐諸島はるか北方に分布。
- ・隠岐諸島北東の暖水域は東進し能登半島西方に分布。
- ・能登半島はるか北方の暖水域は定在。
- ・島根沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」接岸状況は「やや接岸」で経過。
- ・山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」、接岸状況は「平年並み」で経過。
- ・対馬暖流域の表面水温は、「平年並み」で経過。
- ・対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに「かなり高め」で経過。

お問い合わせ先: 兵庫県但馬水産技術センター (鈴木) TEL: 0796-36-0395 FAX: 0796-36-3684
email: nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp
ホームページ: <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>



2021年6月の海況模式図

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/index.html>

2021年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2021年7月中旬～9月）

- (1) 隠岐諸島はるか北西の暖水域は東進し隠岐諸島はるか北方に分布する。隠岐諸島北東の暖水域は東進し能登半島西方に分布する。能登半島はるか北方の暖水域は定在する。山形沿岸の暖水域は北進し秋田西方に分布する。津軽半島西方の暖水域は東進し津軽海峡から流失する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく、接岸状況はやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく接岸状況は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、規模・接岸状況ともに平年並みで経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、規模はやや小さく、接岸状況はかなり離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“かなり高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2021年3月～21年6月、(2)～(3)は2021年3月～21年5月、(4)は2021年3月）

- (1) 3月に隠岐諸島北東で見られた暖水域は6月まで定在。3月に島根北方に見られた暖水域は東進した後に北上し、隠岐諸島東方を経由した後に、6月に隠岐諸島北東の暖水域と合体。3月に秋田西方に見られた暖水域は北上し、6月に津軽半島西方に分布。3月に津軽半島西方で見られた暖水域は4月に津軽海峡から太平洋へ流失。4月に能登半島はるか北方に出現した暖水域は5月まで定在した後にやや南下し、6月に能登半島はるか北方に分布。5月に隠岐諸島はるか北西に出現した暖水域は6月まで定在。6月に山形沿岸に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、3～4月はかなり小さく接岸状況ははなはだ離岸、5月はやや小さめでかなり離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、3月は規模・接岸状況ともに平年並み、4月はやや小さくやや離岸、5月はやや小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、3月はやや小さくやや離岸、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さく接岸状況は平年並み。入道崎沖の冷水域は、3月はやや小さくはかなり離岸、4月と5月はかなり小さくはなはだ離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、3月は島根～鳥取沿岸、隠岐諸島はるか北方および佐渡島～山形沖で“かなり高め”～“はなはだ高め”、福井沿岸、能登半島東岸で“かなり高め”、能登半島はるか西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”以外は“平年並み”～“やや高め”。4月は島根～但馬沿岸、能登半島東岸～青森沿岸で、“かなり高め”、鳥取沿岸、新潟上越沿岸で“はなはだ高め”以外は“やや高め”。5月は山口県沿岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“かなり高め”、北部では“やや高め”。

3. 現況（2021年6月）

- (1) 暖水域は隠岐諸島はるか北西、隠岐諸島北東、能登半島はるか北方、山形沿岸、津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、かなり小さくやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、かなり小さく接岸状況は平年並み。佐渡沖の冷水域は、規模、接岸状況とも平年並み。入道崎沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、鳥取沿岸で“かなり高め”、石狩湾沿岸、佐渡北方で“かなり高め”～“はなはだ高め”、佐渡北岸で“かなり低め”以外は“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“はなはだ高め”、北部では“かなり高め”。

（註）引用符（ ” ” ）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- ” はなはだ高め（低め） ” : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ）
- ” かなり高め（低め） ” : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）
- ” やや高め（低め） ” : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）
- ” 平年並み ” : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

出典：国立研究開発法人水産研究・開発機構

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/index.html>